

E-16 集合住宅の外観デザインへの志向

大阪市大家政住居学科

○北浦がまる

1.はじめに 集合住宅の外観デザインにおける没個性の問題を、居住者はいかにうけとめ、解決しようとしているかを、一戸建、ファミリー、独身寮の場合と、比較することにより、てきとてみた。調査は現状の外観デザインに対する満足度、個性の要求度を中心におこなった。次いで理想像をも求めた。

2.調査の概要 ティーデザインイメージに関する調査は、心理量を定量的に把握する方法として、S.D.法を用いた。従来の諸研究の検討と、予備実験(10人)における結果から24の形容詞対を選出した。対象は集合住宅(千原N.T.), 独身寮(泉北N.T.) 居住者各40人、一戸建(千原N.T.), ファミリー(東豊中, 千原N.T.) 居住者各20人である。

3.現状のデザインの満足度と個性の要求度 7段階評定で各尺度に10までの得点を与えて、イメージプロフィールを作成した。全体として、各被験者の居住している建物のデザインのレベル差が大きく影響しているといえる。又、所有意識や永住意識のある方が、住宅に対する関心度も強く、評価も厳しくなっている。対象とした集合住宅は、ある程度洗練されたデザインであるため、評価のレベルは全体として高い。独身寮は新しい試みが多くあり、そのうけとめ方が個人によって非常に異なっていた。ファミリーについては、デザインの画一化に不満が集中していた。個性の要求度は、ファミリー、一戸建、独身寮、集合住宅の順であった。これは、集合住宅の平均的外観イメージの定着と、所有意識の問題にかかわっているためだと見える。インテリアにおける個性の要求も、ファミリーや一戸建の方が強くあらわれている。